第４課　この世の道から逃れよ

【暗唱聖句】

「怒りの日には、富は頼りにならない。慈善は死から救う…富に依存する者は倒れる。神に従う人は木の葉のように茂る」箴言11:4，28

【今週のテーマ】

今週はこの世の誘惑に勝利し、この世の道から逃れて、いつも神様のみ心に従って生きるためにはどうしたら良いのかを学びます。

【日曜日・キリストとの関係】

この世的な所有物への執着は、神様からわたしたちの心を引き離し、この世とわたしたちの心をつなぐ強力な鎖となります。物質的な要求はすべてキリストの管理下の下に置かなければなりません。しかしこの世の物に心を惹かれないためには、どうしたら良いのでしょうか。

「上にあるものに心を留め、地上のものに心を引かれないようにしなさい」コロサイ3:2

この世の物に心を惹かれないためには、上にあるものに心を留めることだと聖書は語っています。つまりイエス・キリストとの個人的な関係を日々しっかりと持っていくことです。キリストとの絆が深まれば深まるほど、それに反比例するかのようにこの世への執着心は薄らいでいきます。これは自己中心的な生き方からキリスト中心への生き方に変わることでもあります。この世のものを見つめた状態で、この世のものから離れることを祈ったとしてもそれは不可能なことです。しかし、キリストを見つめていくなら、この世のものへの関心が必ず薄らぎます。そして、キリストとの関係をしっかり築き上げていくことによって、他の物が心の中に侵入してくるのを防ぐことができるのです。

【月曜日・み言葉の中に】

「というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです」へブル4:12

聖書は単なる書物ではありません。そこに書かれている言葉はすべて神様の言葉であり、それゆえ聖書の言葉は生きています。心を開いてみ言葉に耳を傾けるとき、み言葉はその人の中で力を発揮し、鋭い剣のようにその人を貫いて、その心の奥にある思いや考えまでも見分け、正しい思いへと変えることができます。この世から逃れるためには、み言葉の力なしには不可能です。日々み言葉を読み、学び続けていくうちに、み言葉の力が私たち一人ひとりの生き方に大きく影響を与えてきます。また聖書を学ぶということは、イエス様を学ぶということ、言い換えれば、イエス様を知るということでもあります。

「あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ」ヨハネ5:39

イエス・キリストとの関係をより一層深めていきたければ、み言葉を学ぶことが最も重要であることはイエス様ご自身の言葉からも一目瞭然です。しかも、それは道、真理、命の探求でもあります。

「イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」ヨハネ14:6

このような崇高な真理の探究は、ちっぽけなこの世のことから心を離す大きな力となります。わたしたちはより意味のあるものへと心が奪われるようになるからです。聖書の学び、すなわちイエス・キリストを探求し続けていくうちに、わたしたちはキリストとの愛の関係に入り、やがてこの世のことから自由になることができます。

「イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」ヨハネ8:31、32

この世の事柄から心が解放されるとき、本当の自由を知ります。イエス様はわたしたちをこの本当の自由へといざなってくださるのです。

【火曜日・祈りの生活】

み言葉の力と同様にこの世から逃れるための大きな力となるのは祈りです。魂の呼吸とも言われる祈りは、神様とつながることができる唯一の霊的手段です。祈りは神様との会話であり、自分の思いを伝えることができる素晴らしい方法です。いつでも、またどんな言葉にも神様は耳を傾けてくださいます。わたしたちが祈っているとき、わたしたちはこの世から離れて神様との深い霊的な交わりの中に入ります。祈りの言葉の中身が重要であるというよりも、祈りを通して神様との交わりの中に入ることが重要なのです。何でもご存知である神様は、わたしたちが祈る前から、私たちの必要をご存知です。ではなぜ祈る必要があるのでしょうか。神様がそれを望んでおられるからです。わたしたちと一緒に時を過ごしたいと神様が望んでおられるのです。そして、これはわたしたちにとっても本当に素晴らしい経験なのです。

祈りにおいて注意すべきことは、この世の望みをかなえるために神の国の力を引き出すことが目的ではないということです。ともすると、そのような祈りに陥りがちです。もちろん、愛の神様はわたしたちの必要を顧みてくださることでしょう。しかし、より重要なのはこの世の望みを実現することではなく、この世において神様の御心を生きていくことです。このことを忘れてはなりません。

【水曜日：知恵の生活】

「どうか、あなたの民を正しく裁き、善と悪を判断することができるように、この僕に聞き分ける心をお与えください。そうでなければ、この数多いあなたの民を裁くことが、誰にできましょう」列王記上3:9

ソロモン王は民を正しくさばき、善悪を判断することができるようにと、神様に知恵を求めました。この祈りに対して神様が次のように語られました。

「あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える。あなたの先にも後にもあなたに並ぶ者はいない」列王記上3:11，12

ソロモンが自分のために、この世のものを求めることをしなかったことを神様は喜ばれ、ソロモンの願いを聞き入れられます。そしてさらにこう続けられました。

「わたしはまた、あなたの求めなかったもの、富と栄光も与える。生涯にわたってあなたと肩を並べうる王は一人もいない。もしあなたが父ダビデの歩んだように、わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら、あなたに長寿をも恵もう」列王記3:13，14

ソロモンが求めなかったのに、神様が富も栄光を与えると言われたのは非常に興味深いところです。それはすべて神様の栄光となるのでした。さらに「わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら、あなたに長寿をも恵もう」と続けられました。ここでの注目点は「わたしの掟と戒めを守って、わたしの道を歩むなら」という条件が付けられていることです。神様からいくら素晴らしい知恵をいただいても、それを実行できるというわけではありません。実行しなければ神様の知恵もただの情報となってしまいます。ソロモン自身実際に神様に服従しなかったことによって正しい道からそれてしまったこともありました。このソロモンの実例は、聖書からどれほど正しい有益な知恵を得たとしても、その神様の知恵を生きることをしなければ、物質主義的な生活に容易に飲み込まれてしまうことを表しています。

【木曜日・聖霊】

この世界は二つの目に見えない霊的な力が戦いを繰り広げています。これは決して作り話ではなく現実です。そしてこの二つの陣営は、わたしたちの魂を得ようと戦っています。一方はキリストへと、また他方はこの世へと引き寄せています。

この世から逃れるためには、イエス・キリストとの関係が重要であること、み言葉の学びと祈りが重要であることを学んできましたが、これらことがらはその背後で働き、わたしたちを正しい方向へと導いてくださる聖霊の働きなしにはうまくいきません。だから、聖霊の声に抵抗せず委ねていくことが大切です。

「その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」（ヨハネ16:13）

聖霊はわたしたちに真理を悟らせ、この世の誘惑に勝利する力を与えてくれます。日ごとに聖霊を求めて、その声に耳をすませ、従っていくことを第一の務めとするならば、必ず勝利への道が開かれていきます。